

認知症作業療法 活動報告 (概要)

当士会は平成**28**年度より認知症施策推進委員会を立ち上げ、現在は**7**名の委員で活動している。主な事業としては、①人材育成(研修)事業、②調査事業、③普及・啓発事業、に取り組みながら、作業療法士が地域で活用されるような活動を進めている。昨年度末の**3月10日**に全国若年性認知症フォーラムが札幌にて開催され、家族会との交流を深めるとともに、今年度はこれまでの事業を継続しながら、更に地方自治体や家族会との連携を進める取り組みを行っている。

人材育成事業

北海道学会にて「認知症をもつ人に対する作業療法～“本人の視点”を生かした作業療法を考える～」をテーマとしたワークショップを実施し、**105**名が参加した。

重点課題研修はこれまで砂川市の実践、家族会、身障領域、精神科領域のテーマで実施してきており、今年度は、「介護保険領域・生活期における認知症の人への支援。北海道での支援の実際」のテーマで企画、実施する見込み。



調査事業

昨年度の北海道内の作業療法士の認知症施策への関与についてアンケート調査の実施に続き、今年度は二次調査として、認知症カフェ、認知症疾患医療センター、認知症リハビリテーション料算定施設について調査を進めている。また認知症カフェの調査については、学術的なまとめも視野に入れ、大学との連携も進めている。



普及・啓発事業

北海道士会員向けとしては、北海道士会ニュースの中に委員会枠でのシリーズ記事を掲載、また家族会理事の委員による家族会コラムも合わせて掲載した。一般向けとしては、認知症リーフレット作成の協力を行った。

これまで検討してきた委員の「**RUN**伴」への参加は、当事者と走る支援を委員が実施した。今後はさらなる普及を検討していく予定。新規の取り組みとしては、北海道、札幌市などの地方自治体や家族会との連携を進める取り組みとして、作業療法士の視点や関わりを紹介して挨拶に出向く活動を実施した。



OT協会との連携事業

認知症アップデート研修は8月と**10**月の**2**回、会員数が多い道央圏開催(札幌市)**23**名参加と、地方開催(小樽市)**15**名参加で実施した。今年度はOT協会の標準的な内容に加えて、委員会内で検討した独自の内容の事例検討を合わせて実施し、参加者からは好評を得た。



今後の展開

- ・ 認知症施策推進委員会のこれまでの活動を踏まえて、さらなる施策の推進に向けて北海道士会内での新たな位置づけを検討していく。
- ・ 認知症に関する研修や調査などは、北海道士会内の担当部署に移行させ、北海道内での認知症に関する課題の整理や取り組みの推進に向けていくことを検討していく。